

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

2015 年度（後期）指定公募②

「地域包括ケアを目的とした在宅医療推進のための多職種研修会への助成」

完了報告書

適切な緩和ケア、認知症ケアが可能な限り

住み慣れた地域で受けられるための研修会

「黒田裕子記念神戸フォーラム 2016」

申請者：梁 勝則

所属機関：医療法人社団 林山朝日診療所

提出年月日：2016 年 10 月 日

開催概要

名称

黒田裕子記念 神戸フォーラム2016

がんでも認知症でも、住み慣れた地域で暮らす町づくりを

目的

「がんでも認知症でも住み慣れた地域で暮らす町づくりを」をテーマに、がん医療・認知症医療に関わる医療関係者の講演等を通して、在宅ホスピス・ケアについて多職種連携を

目指す

プログラム

9月24日（土）14:00～17:00

メインホール：当事者が語るがん医療 がん、ステージⅣのキセキ
－ 苦しみから抜け出す方法を共に考える －

講演Ⅰ：西村元一（金沢赤十字病院副院長）

講演Ⅱ：岸見一郎（「嫌われる勇気」著者）

司会：久保田千代美（エンドオブライフ・ケア協会
ELC コミュニティーリーダー）

長尾和宏（長尾クリニック院長）

* 講演の後は鼎談あり

5階会場：教育講演、セミナー、ワークショップ

1. 大下大圓の臨床瞑想教室

講師：大下大圓（千光寺住職）

2. 関本雅子・安保博文のホスピスの授業

講師1：安保博文（六甲病院緩和ケア内科部長）

講師 2 : 関本雅子 (関本クリニック院長)

3. デイグニティーセラピー 半日速習講座

講師 : 船越政江 (林山クリニック希望の家
訪問看護ステーションわたぼうし看護師)

4. 看取りと文化 ～看取りを生活の一環ととらえる文化を創ろう～

担当 : 蘆野吉和 (帯広市北斗病院在宅緩和療養センター)
石口房子 (広島県地域包括ケア推進センター)
谷田憲俊 (西村医院)

5. 医療と体験者との連携を目指して

担当 : 宮本直治 (がん患者グループゆずりは代表)
講師 : 橋口周子 (兵庫県立がんセンターがん相談担当師長)
講師 : 吉村純彦 (日立総合病院・緩和ケア科医師)
講師 : 太田直美 (たつの市民病院地域連携相談室 地域連携課退院調整看護師)
講師 : 松本京子 (ホームホスピス 神戸なごみの家)

9月25日(日) <午前の部 10:00～13:00>

メインホール : 認知症と精神医療 ～当事者が本音で語る～

講師 1 : 樋口直美 (若年性レビー小体病ご本人)
講師 2 : 山本深雪 (認定 NPO 法人大阪精神医療人権センター副代表)
講師 3 : 高木俊介 (たかぎクリニック院長 精神科医)
講師 4 : 下河原忠道 (株)シルバーウッド代表取締役)

5階会場 : 教育講演、パネルディスカッション

1. 兵庫の緩和ケアエキスパートの連続講義 (午前)

講師 : 清水政克 (清水メディカルクリニック医師・副院長 在宅医療部門)
講師 : 宇野さつき (新国内科医院看護師)
講師 : 山川宣 (国立病院機構神戸医療センター緩和ケア室長、
がん相談支援室長、緩和ケア内科医長)

2. 認知症 コミュニケーションのコツ ～ユマニテーション～

講師：梁勝則(医療法人社団林山朝日診療所理事長)

3. デスカフェ午前の部：こう逝きたいから こう生きています

講師：浦上久美子（訪問看護ステーションわたぼうしウエスト）

9月25日（日）＜午後の部 14:00～16:30＞

メインホール：特別講演「コウノメソッドで認知症の人も地域で暮らせる」

講師：河野和彦（名古屋フォレストクリニック）

5階会場：教育講演、カフェ

1. 兵庫の緩和ケアエキスパートの連続講義（午後）

講師：新城拓也（しんじょう医院院長）

講師：池垣淳一（兵庫県立がんセンター緩和医療担当兼
緩和ケア内科兼麻酔科部長）

2. ワールドカフェ：～いのちを繋ぐまちづくり～

担当：成定啓子（姫路市在宅医療・介護連携支援センター）

講師：宇野さつき（新国内科医院看護師）

3. ワークショップ「Death Cafe @Kobe」

～お茶を飲みながら"死"について語り合う～

担当：田中まひる（はやしやまクリニックケアワーカー）

尾崎勝彦（マリアホスピス ボランティア）

実施場所 神戸コンベンションセンター国際会議場

実施の状況 事前申込参加者 806名

当日参加者 256名

参加者合計 1062名 延べ 1545名

感想

神戸フォーラムは緩和医療、認知症医療・認知症ケア、市民企画の3本立てとしました。

「認知症」は時代の急務ともいえます。河野さんの講演はまさにコウノマジックの連発で、参加者の多くの方が認知症医療の未来に光明を見出したこととでしょう。

緩和系は兵庫県のプロフェッショナル中心に企画しました。エキスパートの連続講義は全国レベルでも遜色のない錚々たる専門家に講義をお願いしました。関本さん、安保さんの対談・講演会は日本のホスピスの歴史の再現ともいえる記念碑的な企画であり、この二つの企画は私が数年前からひそかに夢想していたアイデアの実現でした。ディグニティーセラピーなどスピリチュアルなサポート企画も組み込むことができました。

岸見さんと西村さんの講演～鼎談は最大のサプライズでした。率直で誠実な講師お二人のお言葉から大きな気づきを得た方も少なくなかったはずです。

市民企画として24日当事者と専門職の連携、25日死が来るその時までどう生きるか、死をタブー化せず向き合うという意味内容の連続した企画としました。

今回のフォーラムが緩和、認知症、市民活動がローカルな一過性のブームではなく、神戸→兵庫→関西→全国に波及する持続的なムーブメントになる事を念じ感想と代えさせていただきます。

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成による